

# えべつ 市議会だより

平成28年11月1日発行

## No.127

発行 江別市議会  
江別市高砂町6番地  
電話011(381)1051  
編集 市議会報編集委員会  
印刷 江別印刷業協同組合



～ 中学生サッカー大会 ～

水道・下水道・病院事業会計決算を認定

## 主な内容

- ◇ 第3回定例会の概要…………… 2
- ◇ 意見書…………… 3
  - ◇ 一般質問…………… 4～7
  - ◇ 決算審査の概要…………… 7
  - ◇ 第3回市民と議会の集い…………… 8

市議会ホームページ <http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/site/gikai/>

ホームページでは議案等に対する各議員の賛否の状況や  
会議録など、議会の情報がごらんになれます。

※ホームページをごらんになれない場合は、議会事務局(011-381-1051)までお問い合わせください。

江別市議会

検索 

障がいのある方のための、点字とCDによる「えべつ市議会だより」もあります。

〔詳細〕福祉課障がい福祉係 ☎(011)381-1031

# 平成28年 第3回 定例会

## 条例・一般議案

◎都市と農村の交流センター  
条例の制定

江北中学校跡地に建設中の都市と農村の交流センターについて、施設の設定目的や名称、位置等を定めるため、新たに条例を制定するものです。

◎市税条例の一部改正

◎国民健康保険税条例の一部改正

外国人等の国際運輸業に係る所得に対する相互主義による所得税等の非課税に関する法律の一部改正に伴い、台湾において設立された法人等から支払いを受ける特例適用利子等及び特例適用配当等に関し、個人市民税の課税の特例に係る規定を追加するなど必要な改正を行うものです。

◎団体営土地改良事業の施行

◎幌向揚水機場の管理事務の委託

◎中樹林揚水機場の管理事務の委託

幌向揚水機場及び中樹林揚水機場の維持管理費について、来年度から国の基幹水利施設管理事業として補助を受けるために必要な事業計画の概要

を定めるものです。

また、これらの揚水機場の維持管理に当たり、共同で管理する南幌町に事務の委託をするための規約を定めるものです。

◎土地改良法に基づく市営土地改良事業の経費の賦課徴収に関する条例の一部改正

市営土地改良事業に要する経費に係る賦課金について、土地改良区を通じて徴収することができるよう、必要な改正を行うものです。

◎財産の取得

老朽化した除雪車を更新するため、大型ロータリー除雪車1台を3千378万2千400円で、歩道ロータリー除雪車2台を3千503万5千200円でそれぞれ購入するものです。



大型ロータリー除雪車

◎訴えの提起

交通事故に起因した国民健康保険の給付費に係る損害賠償請求のため、訴えの提起をするものです。

償請求のため、訴えの提起をするものです。

## 人事

◎固定資産評価審査委員会委員の選任

◇長内香氏の再任に同意。

## 予算・決算

◎一般会計補正予算

国等の予算動向による変更や緊急を要するものへの措置などにより、1億4千635万8千円を増額し、予算総額は、468億2千740万3千円になりました。

◎介護保険特別会計補正予算

決算に基づく国などへの返還金等のほか、決算剰余金等を基金に積み立てるため、1億2千360万円を増額し、予算総額は、91億3千960万円になりました。

◎平成27年度水道・下水道・病院各事業会計の決算認定

各事業会計決算が認定されました。審査経過など詳しくは7ページをごらんください。

## 報告

◎水道・下水道・病院各事業会計の資金不足比率の報告

地方公共団体財政健全化法に基づき、27年度決算に関する水道、下水道及び病院の資金不足について、なしとの報告がありました。

◎健全化判断比率の報告

地方公共団体財政健全化法に基づき、27年度決算に関して、実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率の4指標全てが早期に健全化に取り組みべきとされる基準を下回っている旨報告されました。

◎一般会計の継続費精算報告

26年度と27年度の2力年の継続事業として実施していた三つの事業が完了し、総事業費は、新栄団地建替事業が9億1千263万2千400円、校舎屋体耐震化事業(小学校)江別太小学校耐震改築が20億1千45万9千200円、校舎屋体耐震化事業(中学校)第一中学校耐震改築が18億1千22万1千480円であった旨報告されました。



# 意見書

次の意見書を国に提出しました。

◎義務教育費国庫負担制度の充実と教育予算の確保・拡充を求める意見書

学校教育においては、個々に応じたきめ細やかな指導の一層の充実が求められているほか、低所得者層の増大等を要因とした就学援助制度や奨学金制度の充実が喫緊の課題となっております。

このため、義務教育費国庫負担制度の充実と教育予算の確保・拡充を図るよう国に要望しました。

◎東日本大震災の被災者への住宅支援等に関する意見書

震災の発生から5年が経過しましたが、今もなお、多くの方々が避難生活を余儀なくされており、それに伴う課題も顕在化してきています。

このため、被災者への住宅支援について弾力的な運用を行うとともに、避難者の受け入れ自治体が円滑に支援できる方策を講じるよう国に要望しました。

◎同一労働同一賃金の実現を

## 求める意見書

生産年齢人口が減少していく我が国では、賃金だけでなく、キャリアアップに資する教育訓練を含め、雇用形態にかかわらず均等・均衡待遇の確保が重要になっていきます。このため、非正規雇用労働者の正社員化を促進するとともに、公正な処遇を確保し、同一労働同一賃金の早期実現に向けた取り組みを進めるよう国に要望しました。

◎給付型奨学金制度の早期創設を求める意見書

貸与型奨学金により、在学中の経済的負担は一時的に軽減されるものの、返還の負担は、その後の生活設計と資産形成に影響を及ぼしかねないことから、教育費負担軽減施策の充実・強化が重要です。このため、給付型奨学金制度を早期に創設するよう国に要望しました。

◎無年金者対策の推進を求める意見書

年金の受給資格期間の短縮は、無年金者対策及び将来の無年金者の発生を抑制する観点から、平成24年2月に閣議決定された社会保障・税一体改革大綱に明記されたほか、

無年金者対策については、本年8月に示された政府の未来への投資を実現する経済対策に、その実施が明記されたところとす。

このため、必要な財源の確保を含め、安心できる社会保障の実現に向けた取り組みを進めるよう国に要望しました。

◎後期高齢者医療制度の保険料軽減特例措置の継続等を求める意見書

後期高齢者医療制度の軽減特例措置の段階的な縮小については、低所得者に配慮し、激変緩和措置を講じるとされおられますが、消費税率再引き上げの先送りに伴い、低所得者層の負担軽減措置が担保されない懸念があります。このため、社会保障の充実に係る施策の見直しに当たり、保険料軽減特例措置を継続するよう国に要望しました。

◎公共輸送機関であるJR北海道等に係る経営支援策を求める意見書

JR北海道、JR四国及びJR貨物は、発足当初から経営が厳しい状況にあります。東日本大震災の教訓からも、地域の鉄道網が果たす役割や鉄道貨物輸送の重要性が再認

識されています。

このため、JR北海道等が公共輸送機関としての役割を發揮できるように、地域交通や鉄道貨物の確保に向けた施策や経営自立に向けた財政支援を図るよう国に要望しました。

◎保育士の処遇改善、保育所整備等の促進を求める意見書

士の確保や保育施設への支援が不可欠であるとされています。このため、待機児童解消に向け必要な予算を確保し、保育士の処遇改善を初め総合的な対策を早急に進めるよう国に要望しました。



## 一般会計補正予算の概要

事業内容	補正額(千円)
地域福祉係一般管理経費(生活困窮者自立支援事業国庫負担金の過年度分精算による返還金の追加)	636
地域介護・福祉空間整備等事業(介護事業所における排せつ支援機器及び見守り支援ベッドの整備に対する補助の追加)	2,381
臨時福祉給付金事務費(臨時福祉給付金国庫補助金の過年度分精算による返還金の追加)	35,032
保育園運営経費(子どものための教育・保育給付費負担金の過年度分精算による返還金の追加)	15,276
子育て世帯臨時特例給付金事務費(子育て世帯臨時特例給付金国庫補助金の過年度分精算による返還金)	7,123
生活保護一般管理経費(生活保護費国庫負担金等の過年度分精算による返還金の追加)	48,834
予防接種経費(B型肝炎ワクチンの定期接種化に伴う予防接種経費の追加)	8,476
農業振興施設等整備補助事業(市内農業者の共同出資法人による農畜産物直売所の整備に対する補助)	28,600
補正総額	146,358

# 一般質問

今定例会では、11人の議員が一般質問を行いました。各議員が行った質問の中から、紙面の都合上2項目を選び、要約して掲載しています。

ほんま けんいち  
**本問 憲一 議員**  
江別未来づくりの会

## 北海道林木育種場旧庁舎

**問** 旧庁舎の活用に関する公募の申し出件数と、活用に至らなかった理由は。

**答** 旧庁舎の活用に当たっての事業者向けの公募は、21年度から開始し、これまで飲食店としての活用など、12件の問い合わせや申し出があった。しかしながら、用途により、建築基準法や消防法など法令上のさまざまな制約があり、改修に多額の経費を要することから、最終的な公募には至らなかったところである。

## 旧庁舎の今後の利活用

**問** これまでどおりの公募を継続するのではなく、新しい手法も検討するべきでは。

**答** 市教委では、新たな民間活用の手法としてどのような

ものが考えられるか、全国的な先進事例を調査、研究していきたい。

また、21年度から7年間にわたり、公募に応じる事業者がいなかった現状を踏まえ、公募条件を改めて検証するとともに、事業者が投資に前向きになれるような公募条件の見直しについて、検討を進めていきたい。



北海道林木育種場旧庁舎

## 江別の顔づくり事業

**問** 鉄東線や野幌駅南口広場など、今後の整備について市民説明会を開催するべきでは。

**答** 野幌駅の南側については、南口広場整備の進捗に伴い、鉄東線が通り抜けできなくなるなど、道路網が変更となることから、今後とも、工事説明会等あらゆる機会を活用して説明を行い、市民への周知に努めたい。

また、事業の実施を予定している30年度には、ホームペーじや自治会回覧等で広く市民へ周知するほか、意見交換会等の中で説明していきたい。

## 野幌駅周辺の交通安全対策

**問** 駅周辺の道路線形の変更に伴い、信号機の設置など交通安全対策を講じるべきでは。

**答** 信号機など交通安全施設の設置は、所管である公安委員会と計画段階から協議を進めてきた。市ではこれまで、市が対応可能な交通安全対策として、照明施設や区画線を設置するなど、駅周辺における交通安全の向上に努めてきた。今後、工事の進捗にあわ

せ、市が対応可能な対策を実施するとともに、公安委員会に対し、交通安全施設の早期設置を要望していきたい。

このほか、特定健診について質問がありました。

あかさか しんいち  
**赤坂 伸一 議員**  
民主・市民の会

## 大麻駅周辺整備事業用地

**問** 地域の要望を受け、市が所有する鉄道林に小規模な散策路を整備する考えは。

**答** 鉄道林については、過去に大麻駅周辺基本構想に基づいた整備を図る要望があった一方で、自然環境保護団体からは、現状のまま残してほしいという要望もあった。鉄道林については、今後も保全に向けた取り組みを検討しなければならぬと考えているが、既に道路沿いを活用したあじさいロードを整備した事例もあることから、どのような対応ができるか検討していきたい。

## 東野幌総合公園構想

**問** 東野幌総合公園の整備に向けた用地取得の進捗状況は。

**答** 東野幌総合公園は、緑の基本計画において、野幌駅を中心とした緑の南北軸を構成する公園として位置づけられている。面積が16・3haと大きく、用地取得に多額の費用を要することから、これまでの補助事業導入に向けて、道と協議を進めてきた。構想から約20年がたち、人口減少など社会情勢が大きく変化してきていることから、整備の進め方などについて今後検討していきたい。

このほか、市刊行物発行基準とホームページへの掲載、公園遊具等の修理計画のあり方について質問がありました。

うら きみこ  
**裏 君子 議員**  
公明党

## 企業誘致

**問** 企業立地を推進するため、これまでどう取り組んできたか。

**答** 市では、食関連産業を主なターゲットとして誘致活動を実施するとともに、新たな補助制度を創設するなど、企業の新設や増設に対する立地環境の整備を進めてきた。また、既に立地している企

さいとう  
**齋藤**

はじめ  
**一 議員**  
日本共産党議員団

業の課題解決や事業拡大のため、企業訪問やフオーアツプを継続して行っており、事業や雇用の拡大など具体的な成果につながっている。今後も引き続きこれらの取り組みを進めていきたい。

### 宿泊等施設の誘致

**問** 市内への来訪者や交流人口の増加に向けて、提案型による誘致を行うべきでは。

**答** 宿泊等施設の誘致には、札幌近郊の観光客や道立野幌総合運動公園の利用者のほか、大学受験や学会等に伴う宿泊動向など、さまざまな角度からニーズを把握する必要がある。また、札幌中心部との距離が極めて近いという当市の地理的優位性が、逆に弱点であるとも認識している。

宿泊等施設を提案型で誘致することについては、市の土地利用の検討を踏まえ、研究していきたい。

このほか、企業支援、地方創生応援税制、障がい者等への支援について質問がありました。

ほし 星 克明 議員  
よしあき 自民クラブ

### コミュニティ・スクール

**問** コミュニティ・スクール導入の目的と当市における検討状況は。

**答** コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置する学校を指すものであり、学校と地域が互いによりきパートナーとして子供や学校が抱える課題を解決し、子供の豊かな成長に向けた取り組みを進めていくものである。現在、市教委と教職員による検討の場を設けているところであり、その結果を踏まえ、今後の対応について、学校やPTA等と協議していきたい。

### 教職員による応急手当

**問** 教職員の救命講習受講者数をふやすため、達成目標を掲げた計画を策定するべきでは。

**答** 児童生徒の安全を守る上で、緊急時に教職員が冷静に対応し、適切に処置できる体制をつくるためにも、救命講習の定期的な受講は重要であると考えている。

今後は、学校単位で救命講習を実施し、おおむね3年で全校を一巡する体制の構築を

検討するなど、教職員が受講しやすい環境となるよう、各学校や消防署と連携し、救命講習の充実にも努めていきたい。

たかはし 高橋 典子 議員  
のりこ 日本共産党議員団

### 投票しやすい環境づくり

**問** 有権者が安心して投票できる環境をつくるため、期日前投票所を拡充する考えは。

**答** 本年7月に実施された参院選における市内の大学での期日前投票所の設置は、学生にとつて投票所を身近なものにするだけでなく、広く市民も利用できる環境づくりにつながったものと認識している。今後においては、他市の事例や本市の事情などを勘案しながら、市内の大学や公共施設等を含めて、期日前投票所の設置に向けた協議を進めるなど、有権者が投票しやすい環境づくりに努めていきたい。

### 自衛官募集事務のあり方

**問** 卒業予定の高校生への自衛官募集はルールどおり適切に行われているか。

**答** 高校生に対する募集は、自衛隊札幌地方協力本部江別地域事務所が、学校を通じた募集活動や戸別訪問により実施している。

道教委では、求人活動の秩序維持の観点から、民間企業と同様に高校の協力のもとで行うよう協力を求めると要請しており、市としても、この考え方について、改めて江別地域事務所伝えていきたい。

このほか、公共交通政策、公共施設等の維持管理について質問がありました。

すわべ 諏訪部 容子 議員  
ようこ 民主・市民の会

### 冬期間の災害訓練

**問** 冬期間に災害が発生した場合を想定した訓練を実施するべきでは。

**答** 当市ではこれまで、26年度に14自治会、27年度に10自治会で冬期間の避難所運営訓練等が実施されたところである。

今年度は、大学連携事業の一環として、地域と大学による冬期間の宿泊型訓練も検討されていることから、こうした事業も活用しながら、各自

治会に対し、これまで以上に訓練の実施を働きかけていきたい。



避難所運営訓練

### 市民がつくる防災マップ

**問** 市民がみずから避難経路などを確認し作成する防災マップを配布する考えは。

**答** 市では、災害図上訓練を通じて自治会や学校を対象とした、地域の情報や避難経路等を書き込んだマップを作成している。また、今年度からは、自治会で地域の複数の避難所を歩いて回る避難所めぐりウォーキングの取り組みを始めたところである。

訓練を通じて作成したマップを地域に配布してはいいないが、今後も、避難所めぐりウォーキングと連動させながら、地域のマップづくりに取り組んでいきたい。

いしだ たけし  
**石田 武史** 議員

江別未来づくりの会

### 大麻駅跨線人道橋

**問** 高齢化が進む中、人道橋にエレベーターを設置するなどの対策を講じるべきでは。

**答** 人道橋へのエレベーターの設置は、用地の確保や階段部等の移設などさまざまな課題があることから、引き続き、国やJ R北海道と協議していきたい。

なお、足腰の不自由な方が、大麻駅構内のエスカレーターを利用することについては、まずは大麻駅に現状について確認するなど、相談していきたい。



大麻駅跨線人道橋

### コミュニティ・スクール

**問** 現在行われているPTAや地域による教育活動とコミュニティ・スクールとの関係はどう考えるか。

**答** 江別市立の小・中学校では、PTAや学習ボランティアなどによる学習支援のほか、土曜広場や発明クラブでの体験活動など、多くの方々からみずからの経験や知識を生かした支援をいただいている。

市教委としては、こうした団体や個人の支援と協力は、地域から学び、地域をつなぐほか、地域とともに考える学校づくりの基盤と考えていることから、コミュニティ・スクール導入後のかかわり方についても、十分に考慮していきたい。

しまだ やすみ  
**島田 泰美** 議員

自民クラブ

### 大学連携調査研究助成事業

**問** 調査研究の成果を市の施策として選定するに当たって、市民が参加する仕組みが必要では。

**答** 市では現在、応募のあった調査研究について一定の審査基準をもとに採点を行い、庁内の検討会議において採択する事業を選定している。

今後は、調査研究の成果を新たにホームページに掲載することなどにより、市民から広く意見を聞くとともに、選定過程において、大学の研究者による専門的な研究の採択に際し、どのような形で市民参加が可能なかの研究していきたい。

### 子供の医療費助成

**問** 子供の医療費助成に関する近隣自治体の取り組み状況と、それに対する市の考えは。

**答** 市では、平成24年10月から、経済的負担が重くなる入院について、助成の対象範囲を拡大したところである。

他市においては、さらに対象を拡大している事例もあるが、子供の医療費助成については、地域格差のない制度であることが望ましいものと考えており、全国一律の制度構築について、全国市長会でも国に対し要望活動等を行っている。

今後とも国の動向を注視しながら、どのような対応が可能

か検討していきたい。

このほか、病院経営改善の大きな柱となるDPCと地域包括ケア病棟の導入、障害者差別解消法について質問がありました。

とくだ さとし  
**徳田 哲** 議員

公明党

### 災害時の車中泊対策

**問** 災害時に車中泊をする避難者への対応を検討し、速やかに対策を講じるべきでは。

**答** 車を利用した避難者が、公園の駐車場など、指定避難所から遠く離れた場所で車中泊している場合には、情報の伝達や避難者の把握、支援物資の配給などさまざまな課題があると考えている。

市では、今後国が示すガイドライン等を参考に、車中泊避難者への対応について、各種マニュアル等へ反映させるとともに、車中泊避難を意識した指定避難所の駐車可能台数の把握に努めていきたい。

### 被災者支援システム

**問** 災害時に必要な行政手続を迅速に進めるため、被災者

支援システムを導入するべきでは。

**答** 被災者支援システムは、平成7年に発生した阪神・淡路大震災の際に、罹災証明書の発行など、被災者の支援に係る業務を一体的に行うことを目的として、西宮市が構築したシステムである。

熊本地震の例を踏まえると、迅速な罹災証明書の発行などに努めることは重要であると考えており、被災者の支援につながる有効なシステムの導入に向けて、準備を進めていきたい。

このほか、多様な市民ニーズの把握と政策反映について質問がありました。

ほり なおと  
**堀 直人** 議員

江別未来づくりの会

### マーケティング戦略

**問** シティプロモートの成果を上げるため、マーケティング担当部署を設置する考えは。

**答** 現在、シティプロモートの推進に当たっては、市民や企業、大学などで構成する江別シティプロモート推進協議会と一体となって活動してお



り、今後とも、民間の企業活動で行われているマーケティングの考え方も取り入れながら、活動を進めていきたい。

マーケティング担当部署の設置については、市全体の政策展開の中で、組織のあり方も含め、必要な体制整備を研究していきたい。

### 市の観光行政

**問** 交流人口を定住人口につなげるための戦略についてどう考えるか。

**答** 市では、えべつ未来づくりビジョンにおいて、当市が持つ優位性を生かし、子育て世代の転入促進を目指しており、子育て支援、教育の充実、就労支援、住宅取得支援などの取り組みにより、定住人口の増加に努めている。

今後は、どのような交流人口の増加施策が定住人口の増加に有効かを見きわめ、移住体験やシェアハウス事業などさまざまな手法について、先進自治体の事例を調査し、その事業効果を検証していきたい。

## 決算審査の概要

平成27年度の水道・下水道・病院の各事業会計決算は、定例会初日に9名で構成する決算特別委員会に付託され、会期中に審査が行われました。

なお、本会議では、水道・下水道事業会計は賛成多数で、病院事業会計は全員一致で、いずれも認定されました。

## 主な質疑

◎水道事業会計について

**問** 水道管の更新状況は。

**答** 基幹管路等耐震化計画に基づき、古い管を基本に、優先度、重要度の高い管から更新工事を実施するとともに、耐震管を採用することにより耐震化を進めている。

また、各年度の事業の平準化を図り計画的に更新工事を行っていききたい。

◎下水道事業会計について

**問** 雨水管路整備事業の取り組み状況は。

**答** 大麻地区の西側地域の水を集めて麻別川に流すための大麻4号幹線の整備は、20年

度から開始し、27年度で主要部分の工事が完了している。

また、野幌駅周辺の顔づくり事業における道路の再編成の中で、雨水管の整備、更新取りかえを行うなど雨水処理機能の向上を図っている。

◎病院事業会計について

**問** ジェネリック医薬品の採用状況は。

**答** 国がDPC制度における収益確保策としてジェネリック医薬品を推奨していることに加え、近年、ジェネリックメーカーの大手薬品会社への系列化が進んでいることにより、供給体制が安定化し、信頼性が増してきたことから、まずは数量シェア60%を目標にジェネリック化を推進していききたい。

**問** 過年度決算を踏まえた今後の市立病院の経営方針は。

**答** 診療材料等の見直しなど可能な限り経費の削減に取り組んでいるほか、高齢者に強い現在の総合内科の機能を生かしつつ、専門内科の機能を向上させ、一定レベルの高度医療にも対応する中で収益の構造を改善するために、DPC制度を導入した。さらなる高齢社会に対応す

るため、ベッド数を維持することは必要であり、今後、収益的改善に向けて、さまざまな取り組みを行っていききたい。

### 平成27年度 企業会計の決算状況

(単位：千円)

		収入	支出	差引収支額
水道事業	収益	2,576,637	2,256,277	320,360
	資本	247,629	1,243,846	△996,217
下水道事業	収益	3,598,451	3,307,079	291,372
	資本	1,257,245	2,433,993	△1,176,748
病院事業	収益	6,942,410	7,420,484	△478,074
	資本	799,264	1,193,613	△394,349

#### 決算特別委員会委員

- ◎高間 専逸
- 内山 祥弘
- 石田 武史
- 岡村 繁美
- 相馬 芳佳
- 角田 一
- 星 克明
- 宮川 正子
- 吉本 和子
- ◎委員長 ○副委員長

## 議会の動き

### 〔8月〕

- 25日 経済建設常任委員会
- 生活福祉常任委員会
- 26日 総務文教常任委員会
- 31日 議会運営委員会

### 〔9月〕

- 6日～28日 第3回定例会
- 7日 経済建設常任委員会
- 生活福祉常任委員会
- 8日 総務文教常任委員会
- 9日 決算特別委員会
- 14日 議会運営委員会
- 14日～16日 一般質問
- 15日 図書室運営委員会
- 20日～23日 決算特別委員会
- 28日 議会運営委員会
- 議会報編集委員会
- 決算特別委員会

### 〔10月〕

- 11日 総務文教常任委員会
- 生活福祉常任委員会
- 14日 議会報編集委員会
- 17日～25日 決算特別委員会

## 次期定例会の予定

### 第4回定例会

- 11月28日～12月13日 常任委員会
- 11月29日～12月5日 一般質問
- 12月7日～9日

### 経済建設常任委員会所管事務調査

7月26日に農作物生育状況調査及び所管施設の現地調査を実施し、代かきした田に直接もみをまく直はん方式を導入している水稲「ほしまる」や春まき栽培の小麦「ハルユタカ」の採種ほ場を視察したほか、花卉の栽培状況を調査しました。

また、大麻高区配水池及び大麻低区配水池を視察しました。



### 総務文教常任委員会所管事務調査

7月15日に市内小学校等の調査を実施し、今年度は小学校2校及びセラミックアートセンター企画展示室を視察しました。

小学校では、外国語指導助手による英語授業や退職教員などを活用した学習サポート事業、デジタル教科書の活用について、それぞれ説明を受けました。



# 市民と 議会の 集い

第三回

◎日時：11月13日(日曜日)

14時～16時(開場13時30分)

◎場所：江別市民会館37号室

江別市高砂町6番地(江別市役所隣)

— ワークショップって? —

一方的な伝達や発表ではなく、自由に意見を出し合ったり、お互いの理解を深めたりするために有効な技法として活用されています。小グループに分かれ、紙とペンを使い、さらには相手の意見を尊重しながら進めるため、参加者一人ひとりが発言しやすいのも特徴です。

— 3つのグループに分かれて行います —

議会の3つの常任委員会である、総務文教常任委員会、生活福祉常任委員会、経済建設常任委員会が担当する分野ごとに、それぞれ順番に行っていきます。どのグループになるのか、どの順番で各常任委員会が回ってくるのかは、受付時にお知らせします。

江別市議会は開かれた議会を目指し、市民の皆様と「第3回市民と議会の集い」を開催いたします。今回はワークショップ形式を取り入れ、皆様のお声をお聞きしたいと考えておりますので、ぜひご参加ください。

## 編集後記

今年大きな災害が多い年でした。北海道では、観測史上初めて3個の台風が連続して上陸したほか、さらに台風10号の猛威が甚大な被害をもたらしました。堤防が決壊し、街が水浸しになった南富良野町では、これまでに起きたあまたの災害復旧の教訓が生かされ、被災した直後に、南富良野町災害ボランティアセンターが開設されたそうです。そして、「自分も助けてもらったから」「自分も何かしたい」と、全国各地からたくさんの方々がボランティアが駆けつけました。人間は自然には勝てず、災害はこれからも起きるでしょう。しかし、各地の災害に全国からたくさんの方々がボランティアが駆けつけ、人と人が助け合うことが当たり前前の社会になれば、そこに少しの希望が見えてくるのではないのでしょうか。改めて私たちができることを考え、実行していきたいものです。